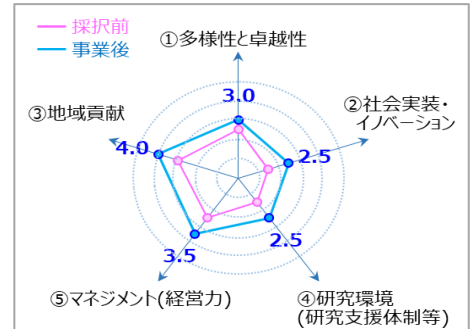


地域中核大学イノベーション創出環境強化事業 令和 4 年度採択校アワード審査調書概要

法人名：国立大学法人弘前大学
大学名：弘前大学

(1)地域中核大学としての取り組み

- ◆弘前大学の研究成果による地域イノベーションの創出
 - ・青森県産サーモン養殖事業を展開している地元企業が R5.9 月に東証スタンダード市場に上場(県内 4 社目)
 - ・別の地元企業が、りんご搾り粕セラミド等抽出技術を活用して、肌保湿製品の新工場を R5.4 月に竣工



◆本事業による大学の機能強化 (右の羅針盤)

①多様性と卓越性[採択前 2.5→事業後 3.0]

- ・リチウムの効率的な回収技術 (多様性)

早期の社会実装に向け、大手企業との共同研究を展開(総額 1 億円を超える研究資金)、R5.7 月に「弘前大学リチウム資源総合研究機構」を設置し、研究体制を強化

- ・健康ビッグデータ研究 (卓越性)

R4 年度に「共同の場形成支援(COI-NEXT 地域共創本格型)」に採択、R5 年度には、共創の場形成支援プログラムの「次世代を担う人材育成」及び「他機関との連携強化による拠点ビジョン実現の加速・充実化支援」にも採択され、COI-NEXT 拠点の卓越性を更に向上

②社会実装・イノベーション[採択前 1.5→事業後 2.5]

- ・QOL 健診について、COI-NEXT 参画企業とライセンス契約、R6 年度から全国展開を開始
- ・健康ビッグデータの収益化に向け、MTA 等の利活用制度を設定、また、健康医療 AI を開発する大学発スタートアップを R5 年 11 月に設立(スタートアップ創出数 0 件→4 件へ)

③地域貢献[採択前 3.0→事業後 4.0]

- ・新たに県内 8 市町村と包括連携協定を締結(累計で全 40 市町村中 23 件締結済み)
- ・各市町村の地域課題を解決することを目的とした「連携調査研究事業(事業費は市町村負担)」の受入額は R3 年度から約 2 倍増

④研究環境 (研究支援体制等) [採択前 1.5→事業後 2.5]

- ・学術研究支援室を R4 年度に新設、URA2 名増員し研究支援体制を強化、アウトカムとして R4 年度以降の科研費は 7 億円を超え、東北地区では東北大学に次ぐ獲得額・件数へ

⑤マネジメント力 (経営力) [採択前 2.5→事業後 3.5]

- ・学長戦略会議において、全学的なビジョンを策定
- ・COI-NEXT(10 年間で 7.41 億円)、地域中核施設整備事業(18.77 億円)等の大型公的資金獲得
- ・健康ビッグデータ研究の共同研究講座は 16 講座から 22 講座へ増加(R5 受入額 4.8 億円/年)
- ・大学全体の共同研究受入額は R4 年度 9.32 億円/年(R3 年度 6.10 億円/年から大幅に増加)

(2)地域連携した社会貢献の取組を通じて得る外部資金獲得額増加に係る実績

①地域と連携した社会貢献の取組を通じて得る外部資金獲得増加

- ・R4 年度に 1 億円突破、R5 年度は 11 月末時点で既に 1.1 億円を突破

②財源多様化による経営基盤の強化に向けた大学の取組

- ・健康ビッグデータ研究の共同研究講座の R5 年度受入額は過去最高となる 4.8 億円/年
- ・将来的な寄附金の獲得増加を見据えた、学生・卒業生との新たなネットワーク構築
- ・間接経費の割合を引き上げ (R5.7 月に学内決定、R6.4 月から実施)

(3)アワード獲得の効果

10 年後ビジョン「人と社会の Well-being に寄与するイノベーション創出拠点になること」に向け、各取組を前倒して実行(健康ビッグデータ研究の先鋭化・全学展開等により地域へ成果波及)、また、地域イノベーション創出に繋がる取組への投資・体制整備を実施する。研究成果の社会実装を地域で創出していくとともに、地域の産学官金で進める「地域人材によるスタートアップ創出」を本学が牽引し、大きな社会貢献の役割を果たす。